

<授業研究チーム・外国語部会>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲も高い。しかし、他教科と同様に学力の二極化が見られ、小さい頃から英語に慣れ親しむ環境で育ってきた児童生徒がいる一方、英語に苦手意識をもち、聞くことや話すことに消極的な児童生徒も一定数いる。また、英語に関して豊富な経験を有する児童生徒でも、相手意識や目的意識をもったやり取りは、やや苦手な傾向がある。

【部会のねらい】

外国語科、外国語活動、英語活動において、主体的に考えや気持ちを伝え合う力を育成する。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ①英語を通じた小中の交流授業を実践する。 ②単元計画において、必然性のあるやりとりの場の設定を工夫し、実践事例を持ち寄り、S&Uの授業を参観したりして学び合う。 ③「しもつけ未来学習」を積極的に活用する。 ④英語でコミュニケーションDAYについての情報交換を行う。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・三校の教員が一つのことに向かって共に考えることができた。 ・交流授業では、中学1年生が小学校2校に分かれて出向くという形で、対面での実施ができた。お互いに小学校の一番の思い出を話すという場面を設定したが、無理のない内容であった。また、児童生徒の振り返りは、ほとんどが前向きなものであった。教員側も、連携のよさを子どもたちの姿で確認することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業のより効果的な持ち方(昨年度は、中2と小6がオンラインによる実施)について、さらに検討していく必要がある。 ・小小連携についても考えていく。 ・祇園小が授業を公開したが、他校の部会のメンバーが参観することが難しかった。

【小中交流授業の様子(R5.12.1)祇園小学校、緑小学校にて】

